



ひゅーまんらいふ

第62号 平成18(2006)年1月

人権大好き!

第31回米子市人権・同和教育研究集会在、1月19日米子コンベンションセンターほか7会場で開催されました。

そのうち、全体会で意見発表された就将小学校PTA 高橋喜美子さんの発表の一部を掲載いたします。

私にとって人権学習ってなんだったのかな…。なんで、スーッと入れたのかなと考えるとき、「そうだ！あの講演会がきっかけだったんだ」というのがあります。それは、ギターの弾き語りあり、笑いありの楽しく学べる光徳小学校教頭河合先生の人権学習でした。その中で、部落出身だということだけで結婚差別にあい命を落とした若者の実話を歌った岡林信康の「手紙」を何回も聴かせていただきました。これをもとに作られたのが谷村新二の名曲「帰らざる日々」だそうです。なにげなく聴いたり歌ったりしている歌詞の中にも、人権につながる意味があり言葉の大切さを感じ、歌の中に一つずつ深い思いがあることを教わりました。また、日常にあふれている漢字の一つ一つにも意味や成り立ちがあり、例えば「親」という漢字も、今まで私は子どもを上から見下ろして叱ってばかりいましたが、そうではなく、大きな目を見開いて子どもを間近で見守っていくという意味があることも教えていただきました。まだまだ知っている面白く得することばかりです。人権をしっかりと広い目で見るとこういうことの積み重ねだと思いました。人権学習が初めての人も、ここから入ったら第一歩が踏み出せるのではないかなと、呼びかけにも自信が持てました。人権学習は人との出会いであり、その中からいっぱい生きるための栄養をいただけたと思います。日常的に自分の本当の気持ちが安心して言い合え、わからないことを安心して聞ける、そんな人と人との関係を築き上げることが大切であり、これからも言ってもらえる自分でありたいし、この人といたら安心できると思ってもらえる自分になりたいと思います。当たり前前に助けて助けられて「お互い様」って素直に思えたらいいですね。人権学習は人のためではなく、自分を大好きになるための学習だと思っています。

子どもたちにとっても大人が人権学習に真剣に取り組んでいる姿を見せることは、何よりの勉強になるのではないかと思います。一人の百歩より百人の一步、人権の輪が広がるってこういうことなんだと実感しました。日々の生活の中で子どもたちはいろいろな姿を見せてくれます。それは、きっと私の姿であり、今の私の行いに示唆を与えているのだろうとわが身を振り返り、言葉より生活態度から人権に対する確かな目を共に育てていきたいと思っています。子どもたちに何も残すものはありませんが、命を大切にする人権意識だけはなんとしても残していきたいと思っています。今は米子が大好き、就将小学校が大好き、そして何よりたくさんのお出会いと気づきをいただける人権学習が大好きです！

高橋さんの発表をはじめ、全体会での記念講演や米子東高校2年福原千秋さんの意見発表を収録したビデオを、人権情報センターに置いています。



新しいビデオの紹介

人権情報センターでは、今年度も新しくビデオを購入しました。どうぞ、ご活用ください。

「ハンセン病

今を生きる」

2005年 49分

対象：小学生～一般



「人と人とのふれあい、私たちにはそんな言葉はなかった。故郷に帰っても周りの人が受け入れてくれるだろうか。残り少ない人生を、人間として生きたい。」鳥取県境港市出身の石田雅男さん。10歳の時「らい病」と診断されて親と引き離され、荷物のように岡山県国立療養所長島愛生園へ運ばれ隔離された60年の歴史を、すばらしい映像として完成。「社会に根強く残っている偏見や差別をなくしていきたい。」と呼びかける感動のドキュメンタリーです。

「ヒューマン博士と 考えよう」

2005年 28分

対象：小学校高学年～一般



差別の歴史をひもときながら、差別された人びとの生産と労働、芸能や文化への関わりを、中世から近代へと時代を追いながらヒューマン博士がわかりやすく解説しています。学校では、人権学習の導入やまとめの教材に、また、地域や職場においては、今日の部落史観に基づく啓発教材として、同和問題への理解をより一層深めていただきたいビデオです。

「み～つけた！」

2005年 18分 アニメーション

対象：小学生



子どもたちは日々の学校生活に安心感を持ち、仲間と共に自分のよさを発揮しながらいきいきと活動し成長していくことが大切です。受容してくれる仲間の存在は、一人一人の子どもの人権を守る基礎です。クラスの中で「どうせ自分なんか・・・」と劣等感を持ち、疎外感の中で自分の言いたいことははっきり自己主張できない少女。転校生の少年が、そんな少女とクラスメートとの関わりをもどかしく思い、自らの体験をもとに「自分の言葉で表現することの大切さ」を訴えます。

「成年後見制度

～それぞれの幸福～」

2004年 48分

対象：一般



「さいごまで自分らしく豊かで安心した生活をしたい」・・・誰もが望んでいることです。しかし、寝たきりや認知症などで思い通りにならないことが起きたりします。そんなとき、誰かが自分に代わって介護の手配をしたり、財産の管理をしたりして、自分の望む生活を実現してくればよいのです。さいごまで不安のないシニアライフを過ごすための成年後見制度啓発ビデオです。

* お詫び

「今月の本棚」は、お休みさせていただきました。



米子市人権情報センター（人権政策課内）

URL : <http://yonago-city.jp/jinken/>

米子市東町 161-2 TEL0859-37-3183 Fax0859-37-3184